

第三節 水上發射機（附）航空機用落射機

明治十五年我海軍ニ於テ魚形水雷註文ノ舉アルト共ニ發射機ニ就テモ相當考慮スル所アリ差當リ水雷船（後日ノ水雷艇）第一號以下ニ裝備スルコトノ能否等ニ就キ調査スルトコロアリシガ之ト相前後シテ軍艦ニモ發射機ヲ裝備スルコトニ決シ先づ明治十九年扶桑、金剛、比叡等ニ朱式發射管ノ一乃至二門ヲ又同年着ノ浪速及高千穂ニ對シテハ同式四門ヲ裝備セシガ明治二十年八重山ノ製造ト共ニ加式旋回發射管ノ採用ヲ見ルニ至レリ（匙形）以後朱式發射管ハ發射装置ノ複雜ナルト氣蓄器ノ面積大ナル爲漸ク其ノ跡ヲ滅シ松島、橋立、嚴島次デ水雷艇ニ至ル迄匙形或ハ圓筒形加式旋回又ハ固定管ヲ採用セリ而シテ先ニ計畫セシ水雷艇ニ在リテハ發射管ノ裝載ハ遲々トシテ進歩セズ二十四年ニ至リ漸ク加式發射管ノ裝備ヲ見タリ獨リ二十一年竣工ノ水雷艇小鷹ニ於テ「ヤーロー」式聯裝發射管ヲ亦舊龍田及吉野

ノ二十四年乃至二十五年ニ英國安社ニテ製造サルルニ及ビ安社式連装或ハ單装旋回(固定)發射管ヲ採用セシコトアルモ何レモ便宜主義ニ外ナラザリシモノナリ

爾後明治二十七年十一月ニ等水雷艇第二十五號ノ建造以降ニ於テハ全部保式ヲ採用セシガ十四吋徑ノモノハ艦(艇)首(尾)發射管ヲ除クノ外全部匙形ヲ有シ單裝及聯裝ノ二種アリ三〇式十八吋魚雷ノ出現ニ伴ヒ三十一年四月以降續々着邦ノ三等驅逐艦ニハ十八吋發射管ヲ採用シ薬發ナリシガ射線增加ノ要求ハニ聯裝トナリ三聯裝トナリ固定、旋回及開角裝置等ニ逐次改良ヲ行フ、四三式二十一吋魚雷出現スルヤ五十三種ニ聯裝發射管トナリ大正四年一月着邦ノ一等驅逐艦浦風ヲ以テ之ガ裝備艦ノ嚆矢トス以上ノ外軍艦用トシテ中甲板ニ裝備セラレ齒車裝置ニ依リ匙形ヲ出入シ旋回樞軸ヲ關節接合トナセルモノアリ

大正八年軍艦龍田ノ建造ト共ニ五十三種三聯裝發射管トナリ電力移動裝置ヲ設ク大正八年八年式魚雷ノ出現ト共ニ八年式發射管トナリ從來ノ氣發藥發兼用ヲ廢シ氣發專用タラシメ旋回及固定裝置ニ大改良ヲ加ヘ從來ノ人力旋回ニ代フルニ電力旋回トナシ人力固定ニ代フルニ空氣固定トナシ旋回速度ノ整齊ト固定ノ確實ヲ計レリ更ニ八年式發射管ニ對シ匙形部ヲ固定(折返サヌ)トシ旋回裝置ニ「ヂヨンネー」ヲ使用シ發射裝置各部ニ大改良ヲ加ヘタルモノヲ十年式發射管トス爾後吹雪型(一七五〇噸)驅逐艦用トシテ十二年式三聯裝水上發射管ヲ又古鷹級裝備ノ一二式ニ聯裝舷側水上發射管ヲ見今日ニ至

レリ

此ノ外戰艦用ノ半側扉式ノ五十三粍發射管アリ又上扉式ノモノアリ半側扉式上扉式共ニ裝備個所ノ節約ヲ第一トシ且裝填ヲ容易ナラシムルニ在リ他ニ日進、春日搭載ノ伊式發射機、三十七、八年戰役捕獲艦ニ露式發射管アルモ共ニ説明ヲ省略ス

潛水艦用水上發射機ハ大正五年佛國ニテ製造ノ複殼型潛水艦建造ト共ニ採用セルモノニ始マリ發射框ナリシガ間モナク發射管ニ改造セラル

別紙第一(羽黒)別紙第二(薄雲)ニ依ル發射機々能表ヲ參照スベシ

(附)航空機用發射機

航空機(飛行機)ヲ以テ魚雷ヲ發射セシハ大正四年ニ始マルモ當時ハ極メテ簡單ナル保持器及發動挺起扛裝置ヲ有セル落射機ヲ假用シツアリシガ制式ノ落射機ナ得シハ大正十三年ナリ即チ大正十二年英國ヨリ招聘セル英人技師「スマス」ニ依リ三菱航空機株式會社ニ於テ一三式艦上攻撃機ニ附帶計畫セラレタルモノニシテ四十五粍四四式二號魚雷ニ適合スル如キ構造ノモノナリ爾來本機ニ對シテハ特種ノ改善ヲ見ズ今日ニ及ベリ但シ昭和四年ヨリ五年ニ亘リ魚雷尾部落下管制裝置考案セラレ發射法上格段ノ貢献ヲ見シガ本裝置ハ航空機落射機ニ關スル一進歩トモ認メ得ベシ

別紙第一

兵器機能調査表(發射管)

軍艦羽黒(昭和四年)

三三三

一、四五秒

一、三〇

一、五三

一、五三〇

一、五三

一、五三

一、五三

一、五三

- 一、魚雷装填ニ要スル平均時間
 - 二、發射用氣密器ニ所要氣壓ヲ裝氣スルニ要ズル時間
 - 三、前扉閉鎖ニ要スル平均時間
 - 四、連續發射ニ際シ第一回發射ヨリ第二回發射用意完成ニ到ル時間(平均)
 - 五、魚雷ヲ舷側ヨリ水雷室ニ取入ルニ要スル時間「デリック」「ダビット」
 - 六、魚雷ヲ舷側ヨリ艦内ニ取入ルニ要スル時間「ダビット」
 - 七、各速力ニ對スル發射用氣密器ノ最大最小裝氣壓
- 最大 最小
- 三四〇 三六〇

別紙第二

兵器機能調査表

發射管種類及位置

一二式聯裝發射管(一番)

同上(二番)

驅逐艦薄雲

上(三番)

(昭和三年)

記事

調査項目	發射管種類及位置	一二式聯裝發射管(一番)	同上(二番)	驅逐艦薄雲	上(三番)	(昭和三年)	記事
(一) 魚雷装填ニ要スル平均時間	○一時三五一分〇秒	○一時三五一分〇秒	○一時二一分〇秒	○一時二一分〇秒	○一時二一分〇秒	○一時二一分〇秒	

HP『海軍砲術学校』公開史料

(2) 発射用氣蓄器ニ所要氣壓ヲ用意 スルニ要スル平均時間	○一 二一〇
(3) 連續發射ノ際第一回發射ヨリ第二回發射用意ニ至ル平均時間	○一四二一〇
(4) 魚雷ヲ舷側ヨリ水雷室ニ取入ル ルニ要スル時間	○一一五一〇
(5) 魚雷一個ヲ舷側ヨリ艦内ニ取入ル ルニ要スル時間	○一二八一〇
(6) 各速力ニ對スル發射用氣蓄器ノ 最大、最小及平均氣壓(大量)	○一二八一〇
(7) 同發射氣壓	○一二八一〇
速力 三〇三三 最大 四四 最小 二・五 平均 三・五	○一五一〇
速力 三〇三三 最大 二・九 最小 二・三 平均 二・六	○一五一〇
速力 三〇三三 最大 二・九 最小 二・三 平均 二・六	○一五一〇